

カナダ –経済とインフレの下振れリスクに言及–

<政策金利を据え置き>

9月7日、カナダ中央銀行は政策金利を0.50%に据え置くことを決定しました。

声明文では「カナダの第2四半期GDPは、アルバータ州の山火事や予想以上に低迷した輸出の影響から減速したものの、第3四半期には石油生産の再開やアルバータ州での復興事業、子供手当支給が消費を押し上げるため、年後半には持ち直す」との見通しを示しました。ただ、「これまで数月続いた低迷により、経済活動は7月時点の予想を下回る可能性が高まっている」とも指摘しています。

インフレについても全体のリスクバランスは現行の金融政策が適切となる範囲に収まっているとしながらも、7月時点よりもやや下振れ方向としています。

<カナダドルは下落>

政策金利の据え置きは市場予想通りでしたが、声明文で経済やインフレの下振れリスクについて言及されたことを受けて、カナダドルは下落しました。

9月7日の海外終値は、1米ドル=1.2884カナダドル、1カナダドル=78.97円となっています。

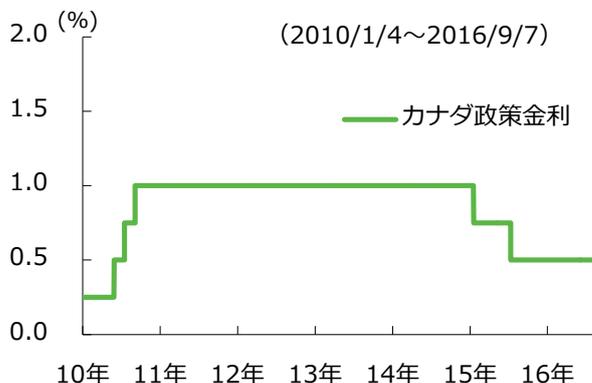
<今後の見通し>

カナダ中銀は、経済活動やインフレの下振れリスクについて言及した一方、第3四半期以降回復が見込まれていることやインフレ率が目標のレンジ内で推移していることなどから、しばらく政策金利を据え置くと予想されます。

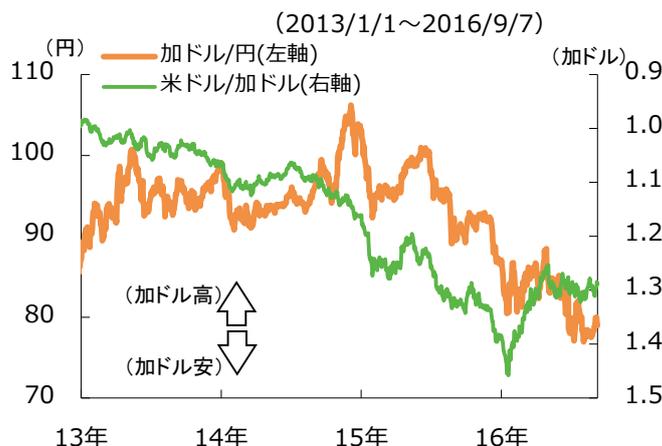
カナダ経済については、山火事の影響などにより一時的に停滞しましたが、7月に開始した子供手当支給による消費の喚起やインフラプロジェクトによる設備投資の押し上げが期待されます。

今後のカナダ株やカナダドルについては、予想を下回る米国の経済指標を背景に9月利上げの可能性は低下しているものの、米国の利上げ時期を巡って大きく変動する状況は続くと思われそうですが、カナダ経済の緩やかな回復を背景にやや強含みで推移すると予想しています。

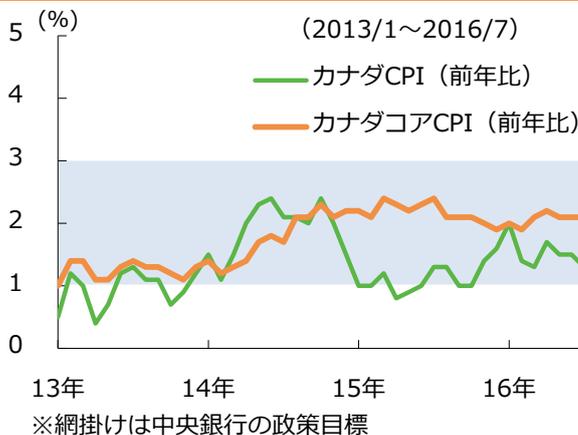
<政策金利の推移>



<カナダドルの推移>



<消費者物価指数>



出所：Bloomberg

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大1.24200%（但し、最低2,700円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の30%以上で、かつ30万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により売買する場合は、その対価（購入対価・売却対価）のみを受払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および運用管理費用（信託報酬）等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等：大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会